

11 章 11b, 12 節 「彼ら(イスラエル人)の背きによって、救いが異邦人に及び、彼らにねたみを起こさせるためです。しかし、彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるというなら、何と偉大なことになるでしょう、彼らが満ちることは」

11 章 14, 15 節 「もし、どうにかして私の肉(同胞)にねたみを起こさせて、彼らの幾人かでも救うこともあるならと。それは、もし彼らの拒絶(捨てられること)が世界の和解となるのであれば、彼らの受容は 死者の中からのいのちでなくて何でしょう」

11 章 16 節 「もし初穂が聖であるなら、粉のかたまりもそうなのです。また根が聖であるなら、枝もそうなのです」

11 章 17, 18 節 「もし枝のいくつかが折られ、あなたが野生のオリーブでありながら、彼らの間に接ぎ木され、そしてオリーブの根からの豊かさにとともにあずかるものとされているのなら、それらの枝に誇ってはなりません。しかしもし誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。」

11 章 19-21 節 「するとあなたは言うでしょう、『枝が折られたのは、私が接ぎ木されるためだった』と。 そうでしょう。彼らは不信仰のゆえに折られたが、あなたは信仰により立っています。高ぶって考えるはいけません。かえって恐れなさい。

それはもし、神が自然による枝を惜しま(放置し、容赦し)なかったとするなら、あなたを惜しむ(放置する、容赦する)こともないだろうからです

11 章 22 節 「ですから、見なさい、神の慈しみと厳しさとを。倒れた者の上にあるのは厳しさです。しかし、あなたの上にあるのは神の慈しみです。ただし、それはもしあなたが慈しみに留まっていればであって、そうでないなら切り取られます」

11 章 23, 24 節 「彼らであっても、もし不信仰の中に居続けなければ、接ぎ木されます。神は再び接ぎ木する力のある方だからです。 それはもし、あなたが自然によるオリーブの木から切り取られ、自然(元の性質)に反して、栽培された(良い)オリーブに接ぎ木されたのであれば、さらにいっそう、自然のうちにいるこの者たちは、自ら固有のオリーブに接ぎ木されることでしょう」

<引用聖句>

(民数記 15:18-20) イスラエルが約束に地に入って収穫した麦によってパンを食べ

ることができるようになったとき、「主(ヤハウェ)に奉納物を献げなければならない。初物の麦粉で作った輪形のパンを奉納物として献げ…なければならない」

(I コリント 16:5) 「信者でない夫は妻によって聖なるものとされており、また、信者でない妻も信者である夫によって聖なるものとされているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れていることになりませんが、実際には聖なるものです」

(ローマ 8:22,23) 「私たちは知っています。被造物のすべては、ともにうめいています、またともに産みの苦しみをしています、今に至るまで。 そればかりか、御霊の初穂を受けている私たち自身も自分の中でうめいています、子(息子)とされる(の立場とされる)こと、すなわち私たちのからだが贖われることを待ち望みながら」

(ヨハネ 15:5) イエスは言われた。「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです」

(ローマ 8 章 31, 32) 「もし神が私たちの味方なら、だれが私たちに敵対するでしょう。この方は、ご自身の御子をさえ惜しませませんでした。かえって私たちのためにこの方を(死に)引き渡されたのです。それならば、どうして、御子とともにすべてのものを私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか」

(ローマ 2:28,29) 「外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく…人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による心の割礼こそ割礼です」

(ヨハネ 20:21) 復活のイエスは弟子たちに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします」

(黙示 19:16) 復活のイエスは「王たちの王、主たちの主(King of kings, Lord of lords)」として、すでに世界を治めておられる。

(黙示 5:9,10) キリストの贖いのみわざと神の民とされた者たちの使命が次のように記されている。「あなた(キリスト)は屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです」

(黙示 5:12) ヘンデル作オラトリオ「メサイア」の最後の曲は上記の続きとして次のように歌われる。「Worthy is the Lamb that was slain…屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です」